



平成30年度 ベトナム研修

ベトナム研修の概略

国際コース第2学年は東南アジアを中心に世界の現状と課題について研究班単位でテーマを設定し、調べ学習を行い、研究論文を半年ほどかけて完成させました。実際現地(ベトナム)に赴き、完成した研究論文を現地の高校生や国連機関であるWHOで発表しました。現地での新たな発見や、自分の研究成果を公の場で発表することで、さらなる成長につながる実りある研修になりました。また、第1学年の生徒は、これから進めていく課題研究に向けて非常に多くの知識や経験を得ることができました。今後の課題研究の成果が期待されます。

◆ 研修日時

平成31年3月24日(日)～29日(金) (5泊6日)

◆ 訪問国

ベトナム(ハノイ)

◆ 研修目的

- ・ベトナム(東南アジア)の文化・歴史・経済について知り、肌で感じる。
- ・研究テーマに関し、調査・研究を行う資料を集める。
- ・現地の人々とふれあい、異文化理解・多文化共生の感覚を身に付ける。
- ・グローバル人材としての問題解決能力・コミュニケーション能力・発信力を身に付ける。

◆ 研修参加者: 第2学年:11名 第1学年:6名



学年	氏名
2年 (国際コース)	平山隆野 宮田涼太 赤塚まひろ 岩井瑠奈 小野智未 木下莉那 中島もも霞 水野歌厘 横田海光 吉村咲希 渡邊愛理
1年 (進学・啓明コース)	角田マキ 伊藤愛 伊東凜香 鈴木凜羽 石田奈津子 豊田祥之

事前研修



ベトナム研修に行く前に、全5回の事前学習を行いました。現地で何を感じ、何を学びたいのかをより明確にし、効率のよい学習をするために、生徒を4つのグループに分けて行いました。ベトナムの基本情報や各訪問先を事前に調べて、自分たちの活動記録用の冊子を作成しました。また、事前に現地でのどのような質問をするかを話し合いました。文化交流準備では班ごとに交流内容を決定し、日本文化の紹介や体験コーナーの準備をしました。しっかりと事前学習と、生徒の皆さんの積極的な姿勢により充実した研修が実現しました。

■ 研修行程

日程	行程
3/24(日)	中部国際空港 ↓ ハノイ(ノイバイ空港)着 ハノイ民族博物館
3/25(月)	市街地フィールドワーク VJCC(ベトナム日本人材協力センター)
3/26(火)	WHO 訪問 パナソニックリスープア
3/27(水)	ハノイ国家大学外国語学部附属英才高校 ホーチミン廟
3/28(木)	文廟・歴史博物館 旧市街地フィールドワーク ハノイ(ノイバイ空港) 発
3/29(金)	中部国際空港着

初めての東南アジア

さっそく現地の街の雰囲気味わうべく、旧市街地を散策しました。これは最終日のフィールドワークの下見も兼ねたものです。見慣れない光景や新鮮な習慣にみな胸が高鳴っていました。

*JCC(ベトナム日本人材協力センター)

現地の大学生に日本語を教えている人材教育機関です。現地の大学生と意見交換会をしました。



*パナソニックリスープア

パナソニックリスープアが社会貢献の目的で設置され、現地の理数教育の一助になっていることや、海外での企業活動について学ぶ事ができました。



● ハノイ国家大学外国語学部附属英才高校

現地の高校を訪問し、授業参加、プレゼン発表、文化交流を行いました。それぞれがお互いの理解を深めることができました。文化交流では、日本語クラブの生徒たちと一緒に両国の伝統衣装(アオザイ・浴衣)の紹介と試着や、駄菓子釣り、福笑い、折り紙、ベトナムのバンブーダンスなどで大変盛り上がりました。日本語クラブの生徒の日本語力は、本校の生徒も驚くほど高いものでした。授業のなかで本校の研究発表を行うなど、充実した交流ができました。



● WHO訪問

国連機関に訪問できる機会は多くはありません。今回は国連の職員の方々から本校生徒の研究発表を聞いていただき、ベトナムの環境衛生についての現状や課題について教えていただきました。また、UNICEF に勤める松本さんから国連機関の仕事の内容や現在ベトナムが直面している問題等、さまざまな内容を学習しました。世界で働くことの魅力や、大変さを学べる絶好の機会となりました。非常に貴重な体験をすることができました。



まとめ

今回の研修で、異文化を実際に体験し、これまで当たり前と感じていた自分の世界が、いかに狭いものであったか実感することができたと思います。その中で感じた多くの疑問や驚き、問題点が、生徒の新たな成長につながるものとなったと思います。今回訪問を受け入れてくださった方々、またこの研修旅行に参加させてくれた両親への感謝を忘れることなく、この貴重な体験をそれぞれの今後の学習に活かして欲しいと思います。